

授業科目名	動物行動学Ⅱ		科目コード	2303022	
開講クラス	動物健康管理学科	コース	動物園・水族館・ドッグ インストラクターコース	学 年	2年
担当教員	下園武志				
	実務経験教員 (有 ・ <input type="checkbox"/> 無) 実務経験内容				
開講時期	前期・後期・ <input type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	31 時間	
	<input type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第2巻			
	著 者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
使 用 テキスト2	書 名	室内犬の飼い方・しつけ・お手入れのすべて			
	著 者	矢崎潤			
	出版社	ナツメ社			
参考図書					
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習				
<p><授業の目的・目標> 犬や猫が取る行動ひとつひとつの意味を理解できるようにする。 また、問題と言われるような行動について学ぶことで、飼い主さんの相談を受けることが出来るようになる。さらに子犬に必要なしつけを学ぶことで、犬を飼い始める人に対し、アドバイスが出来るようになる。</p>					
<p><授業の概要・授業方針> 「動物行動学Ⅰ」「しつけ・トレーニング実習Ⅰ」で学んだ知識を活用し、犬や猫の基本的なしつけやトレーニングができ、また、行動学の知識を、問題行動の治療や就職してからの現場に活かし、動物たちの心身の健康増進に役立て、アドバイスが出来る様にする。</p>					
<p><成績基準・評価基準> 前期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。</p>					
<p><使用問題集・注意事項></p>					
<p><関連科目他> 動物行動学Ⅰ しつけ・トレーニング実習Ⅰ・Ⅱ</p>					

授業科目名		動物行動学Ⅱ
回	授 業 内 容	備 考
1	科目説明	
2	動物行動学Ⅰの復習	
3	基礎的なオビディエンストレーニングについて	
4	基礎的なオビディエンストレーニングについて	
5	基礎的なオビディエンストレーニングについて	
6	犬の入手・社会化とその説明	
7	犬の入手・社会化とワクチン接種の関係	
8	犬の入手・その他	
9	犬種について	
10	犬種について	
11	犬種について	
12	猫種について	
13	応用的なオビディエンストレーニングについて	
14	応用的なオビディエンストレーニングについて	
15	トレーニンググッズについて	
16	トレーニンググッズについて	
17	アドバイスをするために	
18	アドバイスをするために	
19	問題行動について（復習）	
20	問題と言われる行動について（概要）	
21	問題と言われる行動について（概要）	
22	問題と言われる行動について（トイレ）	
23	問題と言われる行動について（吠え）	
24	問題と言われる行動について（留守番・分離不安）	
25	問題と言われる行動について（咬む）	
26	問題と言われる行動について（ケーススタディ）	
27	問題と言われる行動について（ケーススタディ）	
28	問題と言われる行動について（ケーススタディ）	
29	問題と言われる行動について（ケーススタディ）	
30	これまでの復習	
31	模擬試験	